

平成 21 年 8 月 10 日

日本ヒトプロテオーム機構 (JHUPO) 理事会
議事録

日 時 平成 21 年 7 月 27 日 (月) 12 時 15 分～13 時
場 所 北里大学薬学部 1 号館 6 階会議室 1604

《出席者》19 名 (敬称略順不同)

平野久、山本格、磯辺俊明、内海潤、大石正道、小林章一、近藤格、曾根純一、
高尾敏文、戸田年総、中村和行、西村俊秀、根本直、野村文夫、前田忠計、
山田哲司、和田芳直、朝長毅、西村紀 (監事)

《議長委任》3 名 (敬称略順不同)

荒木令江、加藤智啓、谷口直之

総理事 22 名中、参加 19 名、議長委任 3 名により理事会は成立した。
次のとおり議事進行が行われた。

1. 報告事項

1-1. 平成 20 年度事業報告および決算報告

- ・平野会長より、平成 20 年度の事業報告がなされた。
この中で、第 4 回 AOHUPO (2008 年 6 月 22～26 日、オーストラリアのケアンズ)
において若手研究者へ渡航費助成を行ったことにつき、報告書等の提出をしていた
だくよう平野会長から朝長理事へ依頼がなされた。
- ・続いて朝長理事より、平成 20 年度の会計監査、会員の異動、会費納入状況について
説明がなされ、西村監事より、会計監査は間違いがないことが認められた。

1-2. HUPO 活動報告

1-2-1. HUPO World Congress 2008 in Amsterdam の報告

- 平野会長より、2008 年 8 月 16～20 日に開催された世界大会につき報告がなされた。
- ・口演約 140、ポスター約 1,200 の発表があり、またほかにも教育講演や HUPO の
Initiative 報告会もあり、盛況であった。日本からも多くの方が参加された。

1-2-2. HUPO Committee 活動報告

中村理事より報告がなされた。

- HUPO における日本の理事は、現在谷口理事と中村理事だが、HUPO2009 (9月28日～30日、カナダのトロント) の総会において選出される新理事として、JHUPO から平野会長と中村理事を推薦した。
- 現在、様々な Committee から HUPO EC Member at Large の推薦依頼が来ているので、中村理事までご意見いただければ推薦をさせていただきます。

1-2-3. HUPO Initiative 活動報告

中村理事より報告された。

- HUPO の Initiative として、HGPI (Chair: Hisashi Narimatsu) (<http://www.hgpi.jp/>) と HKUPP (Chair: Tadashi Yamamoto) (<http://www.hkupp.org/>) の2つが活動され、HUPO の中でも高い評価を得ている。9月26日に HUPO2009 で報告がされる予定である。

- HKUPP について

山本理事より報告がなされた。

- HUPO World Congress 2008 in Amsterdam でシンポジウムを開催した。主にヒトの尿のプロテオミクス標準化について議論している。The 3rd Workshop on November 5, 2008 at the Loews Philadelphia Hotel の内容を雑誌に発表予定。
- ヒトの尿の世界的な標準化サンプル作製のため、日本腎臓学会において尿バンクをつくる。

- HGPI について

和田理事から、Structural Analysis of N-glycans from the Standard Glycoproteins Using Standard Glycoprotein Samples (transferrin and IgG)、Mass Spectrometry of Glycoprotein Glycans: HUPO HGPI (Human Proteome Organisation Human Disease Glycomics/Proteome Initiative) Multi-institutional Study などにつき、説明がなされた。

1-2-4. HUPO World Congress 2009 in Toronto

平野会長より、2009年9月26日～30日に開催の旨説明された。

1-2-5. HUPO World Congress 2013 in Japan (Yokohama)

- 平野会長より報告。世界大会は、2010年シドニー、2011年ジュネーブ、2012年未定、2013年は日本(9月14日(土)～18日(水)パシフィコ横浜)で開催予定。
- 日本開催については、2009年大会の Council で最終的に決定される予定。

- ・根本理事より提案。2013年に日本で開催することが決定した場合、理事会の任期が2年なので、別途準備委員会をつくる必要がある。
- ・平野会長からは、委員会については電子メールで常務理事会、理事会を開き、決定していきたいと返答された。

1-2-6. HUPO ヒト全プロテオームマッピングプロジェクト

- ・HUPOのYoung-Ki Paik会長から、特定のヒト染色体から翻訳されるタンパク質を解析するプロジェクトに参加するよう奨めがあった。これについては電子メール理事会等で議論することにした。

1-3. AOHUPO 活動報告

1-3-1. AOHUPO Committee 活動報告

中村理事より、6月19日に台北で開催されたAOHUPO理事会について報告された。

- ・2009年12月で任期満了となる理事について信任あるいは新任の推薦があり、日本から平野会長が理事候補として信任された（2010年から3年間）。
- ・第5回AOHUPO Conferenceが、2010年2月21日～25日にインドのハイデラバードで開催される。現在、ECメンバー（President: Young-Ki Paik, Vice President: Fuchu He, Vice President: Kazuyuki Nakamura, Secretary General: Chung Ching Ming, Past President: Richard Simpson, MPI Chair: Bill Jordan）により、2か月に1回電話で国際会議が行われている。

1-3-2. AOHUPO Initiative 活動報告

中村理事より、MPIとAOHUPO唯一のInitiativeについて報告。

- ・膜のプロテオーム解析技術の評価と基準の作成を目的として創設。現在、Victoria University, New ZealandのBill JordanがChairをしている。
- ・AO地域17機関の共同研究でマウス肝臓小胞体膜のプロテオーム解析が行われており、その経過は第4回MPI（オーストラリアのケアンズ）で報告され、また、Proteomics, 8(19), 3920-3, 2008に掲載。
- ・第5回MPIワークショップが2009年6月19日に台北で開催され、今後の展開・拡大について議論された。ヒトLymphocyteなどの小胞体研究へと展開したい。

1-4. JHUPO Initiative 活動報告

西村理事より報告。

- ・2008年7月の理事会において、JHUPO InitiativeとしてFFPE Clinical Proteomics Initiative (FCPI)の設置を承認していただいた（代表：西村俊秀、中村和行、山田哲司）。

- ・活動としては **HUPO Initiative** を意識し、国際的な活動と啓蒙を目指して、臨床研究における組織プロテオミクスの確立と広範囲の疾患を中枢に据えた研究活動、医科学的な研究プラットフォームの成熟化、及び医科学者との密接な共同研究によるトランスレーショナル・リサーチの展開を行ってきた。現在は活動基盤としての公的資金獲得には至っていない。
- ・活動例：
 - 西村代表が慶応義塾大学医学部、**JHUPO** 第 6 回大会、第 67 回日本癌学会学術総会、第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会合同大会などで講演し、多くの研究者が **Initiative** に加わっていただける素地を作った。
- ・今後は、国内での組織を用いる臨床プロテオミクス研究集団を構築していき、**FFPE Clinical Proteomics Initiative** としての成果達成につとめる。また、国際誌へのこの分野の研究発表支援、また国際的なこの研究集団での主導権の確立に努力する。そして、論文 **Acknowledgment** で ” **FFPE Clinical Proteomics Initiative of JHUPO** ” が謳えるような環境を模索する。
- ・中村理事より、サンプリングの標準化がこの **Initiative** の最も重要な目的であることが説明された。
- ・これについて西村理事から、どういうサンプルを集め、どうマッチングさせていくかは基礎研究者の域を超えているため、医学者の視点から厳しい目でやっていかなければならない。臨床検体をどう見てどう扱うかということを含め、**JHUPO** へ医師が入って来られる体制をつくり、もっと情報を伝達していきたいと話がなされた。
- ・中村理事より、**JHUPO Initiative** はコンソーシアムを組み、国際ショナルコラボレーションで技術の評価の展開を国際的に進めていると報告がなされており、そこで **JHUPO** のメンバーがリーダーシップをとることは、**Science Promotion** における貢献を知っていただくのに非常に有効と指摘がされた。また **HUPO** においては、日本のタンパク研究のレベルが非常に高いという評価が定着している。
- ・戸田理事からは、サンプルを集めるときに患者・家族へのインフォームドコンセント等の問題があり、倫理委員会的なバックグラウンドが必要になると意見が出された。
- ・平野会長より、このほか問題等があれば、電子メール理事会にて議論いただくようまとめられた。

1-5. その他

- ・平野会長より、**JHUPO** が推薦した谷口理事が **HUPO2009** において **HUPO Distinguished Service Award** を受賞することが報告され、推薦の経緯について説明が

あった。まず、理事会において谷口理事が推薦され、ついで常務理事会で審査を行い、業績、HUPO への貢献、JHUPO への貢献等、あらゆる面から受賞者にふさわしいとされたため、JHUPO から推薦を行った。

2. 協議事項

2-1. 平成 21 年度事業案及び予算案

平野会長より事業報告がなされた。

- ・ 2008 年の AOHUPO では若手研究者へ渡航費助成を行ったが、今年度はどうするのかについて、また電子メール理事会で議論する。
- ・ 朝長理事から予算案の報告がされ、承認された。
- ・ 和田理事より、予備費の管理をどのように行っているかが質問され、朝長理事からは、庶務担当理事の所属である医薬基盤研究所で管理していると説明された。

2-2. 日本プロテオーム学会設立に関する提案

平野会長より以下の内容が報告された。

- ・ 学会化の目的は、ヒト以外の生物を対象とした研究者にも参加いただき、会員数を増やし、会員にとってメリットがあるようにするためである。2009 年末までに新しい学会を設立する。
- ・ 名称は日本プロテオーム学会（案）とし、ヒトプロテオーム機構（HUPO）およびアジアオセアニアヒトプロテオーム機構（AOHUPO）の日本側対応機関としての役割を果たす。なお、JHUPO のオーガナイズ団体という位置づけになる。
- ・ 学会賞、奨励賞、ポスター賞等、学会賞の授与を考えている。
- ・ 名誉会員制度を創設する。
- ・ 現在会員へ送信している【JHUPO 通信】を、【プロテオーム学会通信】として発行する。また、可能であれば英語版メールジャーナルを発行する。
- ・ 年会費は、年次大会開催後、不参加者からのみ 2,000 円を徴収する予定である。
- ・ 西村理事より会費設定について試算したのか質問があり、平野会長からは、300 名程度の入会を予想し設定したと説明された。
- ・ 平野会長より、学会化の具体的内容については電子メールで理事会を開き、検討すると話がされた。また規約については、さしあたり現行通りとし、段階的に変更していく旨説明された。
- ・ 磯辺理事より、学会化の際には様々な規則に従う必要があり、会員数や会計監査、会

誌発行等きまりがある。年次大会参加費と年会費の関係について厳密にしなければならないと意見が出された。

- ・高尾理事より、消費税の問題にも注意しなければならないと指摘された。
- ・平野会長より、JHUPU 学会化委員として常務理事（平野会長、山本副会長、朝長庶務担当理事、前田理事、山田理事）、JHUPU 過去大会会長（谷口理事、中村理事、高尾理事、磯辺理事）が推薦され、承認された。

2－3. JHUPU 第8回大会準備状況

大会長である山田理事より報告された。

- ・2010年7月26日（月）～27日（火）に、東京ベイホテル東急で開催される。
- ・プログラム委員長に近藤理事が就任しており、海外の招待講演について何件か内諾を得ている。

2－4. JHUPU 第9回大会

- ・平野会長より、第9回大会長として山本理事が推薦され、承認された。新潟で開催予定。

2－5. JHUPU 第10回大会以降

- ・2012年第10回大会の詳細は未定。2013年の第11回大会はHUPO2013と同時期のため、横浜で合同開催予定。

2－6. その他

- ・平野会長より報告。
KHUPU 会長から JHUPU に対し、2010年4月1日～2日にソウルで開催される大会へ2名の招待があった。推薦があれば早急にメールでご連絡をいただきたい。

以上